

令和5年度第2回自立支援協議会地域生活支援部会 議事要旨

1. 開催日時 令和5年10月12日(木)午後2時～午後4時
2. 開催場所 市役所4階 会議室S2・3(オンラインと併用)
3. 出席者 (委員)*団体名のみ記載
(福) 佑啓会、(福) 敬心福祉会、浦安手をつなぐ親の会、浦安市視覚障害者の会トパーズクラブ、浦安市肢体不自由児・者親の会「どっこらしょ」、いちょうの会
浦安市自閉症協会、公募選出委員、(福) パーソナル・アシスタンスとも、(福) なゆた、
(特非) あいらんど、(株) ふくしねっと工房、(福) 南台五光福祉協会、(福) サンワーク、浦安市社会福祉協議会、(医) 城東桐和会 タムス浦安病院、障害者グループホーム等支援ワーカー
(事務局) 障がい事業課、障がい福祉課

4. 議事次第

1. 開会
2. 議題
(1) 第1回地域生活支援部会の振り返りと第2回自立支援協議会について
(2) 個別避難計画作成にかかる市の取り組みについて
(3) 精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築について
3. 閉会

5. 配布資料

- 議題1資料1 第2回自立支援協議会報告
- 議題2資料1 前回部会での福祉避難所に係る質問及び回答
- 議題2資料2 福祉避難所設置・運営に関するマニュアル(修正案)
- 議題2資料3 防災のてびき
- 議題2資料4 避難行動要支援者ワーキンググループの取り組み
- 議題3資料1 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム概要説明
- 議題3資料2 令和4年度第2回地域生活支援部会議事要旨

6. 議事概要

- (1) 第1回地域生活支援部会の振り返りと第2回自立支援協議会について

■説明(事務局)

令和5年度第2回自立支援協議会及び第1回地域生活支援部会の内容について振り返りを行った。

■質疑応答

特になし

(2) 個別避難計画作成にかかる市の取り組みについて

■説明（リーダー）

前回の部会で委員から出た質問への回答及び、福祉避難所設置運営マニュアルの修正内容について共有を行った。

また、個別避難計画作成にあたっての市の取り組みについても説明を行った。

■主な意見（リーダー：リ、委員：委、事務局：事）

委：ワーキンググループのメンバーはどのようになっているか。福祉避難所について事業所としてどのような体制を作っていればよいか。

→事：ワーキンググループは主に福祉部局の7課により構成されている。福祉避難所として協定している事業所の取り組みについて、今後実施していく開設訓練の結果を受けて、事業所とも福祉避難所としてのノウハウを蓄積していきたい。

リ：来月基幹相談支援センターが主催する連携会議の出席者の想定について伺いたい。

→委：福祉避難所開設に係る机上訓練を行う。通所棟を仮の舞台として考えている。参加者は民生委員や自治会で防災を担当している方など。自治会によって災害に対する想定の程度の差が大きいため、認識の共有に役立てばと考えている。

→リ：災害については平常時あまり検討しないため、シミュレーションの機会は重要である。また、自治会の温度差についても気になるが、市で各自治会に説明を行ってどのように感じるか。

→事：地域ごとに温度差は感じている。現在、開設訓練に向けて施設の避難マップなどを作っているが、こういったものが民間にも生かされるのではないかと考えている。

(3) 精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築について

■説明（事務局、委員）

事務局より地域包括ケアシステムの概要について説明を行った後、「千葉県精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業」の浦安・市川圏域における受託事業者である（福）サンワークの石原氏の補足。その後、各委員に意見を求めた。

■主な意見

①医療に関すること

- ・入院治療が地域（浦安市）でできない。
- ・市外の入院先から退院しても受け入れ先がなく、地域に帰れない。
- ・退院しても地域になじめない、孤立化してしまう。
- ・医療従事者の精神障がいに対する理解不足がある。
- ・病院の設置が難しいのであれば、精神障がいの特化した在宅医療のネットワークづくりが急務だと思っている。

- ・団体所属の当事者は既にそれぞれのかかりつけがいる。

②障がい福祉・介護サービスに関すること

- ・(防災・福祉避難計画について) 福祉サービスを使っていない精神障がいの方をどうするか。
- ・(同上) 手帳を持たず、受給者証と生活保護で生活している方もいる。そのような方を拾うのは難しい。
- ・精神障がいの方は障害手帳を持ち続けるものでもない。状態が悪くなった時には福祉ではなく医療が必要になっているケースもある。
- ・精神障がいに特化した短期入所のニーズがある(市川市にはある)。
- ・緊急の短期入所の利用は、問い合わせを含めて精神障がいの方が多い。受給者証のない方もいて、繋がっていない人はまだまだいると感じる。

③住まいに関すること

- ・精神障がいに特化した、専門性の高いグループホーム(以下、GH)に対するニーズは高い。
- ・GHの空床は、専門性や家賃などでミスマッチが生じているからではないか。
- ・入院先から浦安市に戻りたくても戻れない背景には、精神障がいに特化した機関、相談員が不足していることがある。
- ・GHを運営する側としても、専門的スキルが必要だと感じる。
- ・GHに精神障がいのある方が入居する際、その事業所だけでなく、他の事業所・機関との連携を図って対応したい。

④社会参加・地域の助け合い・普及啓発に関すること

- ・(防災・避難訓練について) 地域で避難訓練は行われているが、当事者一人では参加できない。できる状態にない。
- ・(地域包括ケアシステムについて) 当事者への情報提供はどうするのか疑問に思った。